

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

1991年(平成3年)に北海道旭川市で生を受けました。3人兄弟の長男として育ち、公立中学校を卒業した後、直ぐに手に職をつけるため、旭川高専物質化学工学科に進学しました。現在登録している技術部門とは縁遠い化学を専門として勉強をしておりました。その中で、技術士という資格があると知ったのは私に微生物学を教えてくれた技術士(森林部門)を有する教授でした。若い私でもこの資格の取得は難しいと感じておりましたが、何時の間にか取得し、今、この原稿を書いています。化学を志し、卒業後大手化学・食品関連企業に就職する道もありましたが、結局、モラトリアムを楽しみたかったのか奨学金を目一杯借り、苫小牧高専専攻科、北海道大学大学院と様々な化学分野(生化学、タンパク質工学、食品化学、計量化学、大気化学等)に触れ、博士課程に進む才能が無いことを悟り、ご縁があって港湾・漁港を専門とする弊社に就職することになりました。さて、身の上話はほどほどに、今の話を。入社後一貫して、港湾・漁港の計画業務を担当しております。思い入れのある業務は、クルーズ船の振興方策検討と農水産物輸出促進に関わる施設配置検討です。これら検討の中で一番大切なこと、個人的に重要なことと考えているのは、「人の想い」です。クルーズ船の振興を通して「地域の人々はどう感じるか。」、農水産物輸出促進に資する屋根施設整備を通し「漁業者や水産加工会社の想いをどう達成するか。」をずっと考えております。技術士という資格は、これらの想いをくみ取りながら、科学技術を用いて対応を検討する、決して感情論だけで終わらせないことを要求されるのかなと感じております。今後も皆様の「想い」を技術的に解決できるよう研鑽を続けて参ります。

合田 元清(ごうだ もとき)

●建設部門(港湾及び空港)

勤務先

北日本港湾コンサルタント(株)



→次号は、澤田裕介さん(建設部門)

私は函館で生まれた後、父親の転勤で富良野、札幌、旭川、再び札幌…と道内を転校しながら育ちました。小学生の時に魚釣りにハマリ、魚が好きという理由で北大の水産学部に進み、サケの母川回帰機構の解明に関わる研究に携わりました。就職も当時、魚類調査の調査員を募集していた株式会社 北開水工コンサルタントに入社し、以後約21年間、主に魚介類調査を担当しながら、植物・鳥類・昆虫などの生物調査や水質調査、流量観測など、河川に関わる様々な経験をさせて頂きました。中でもカワシンジュガイ類に関しては、水産部門の大先輩である栗倉輝彦氏から、非常に多くのことを学ばせて頂きました。

2018年(平成30年)に、縁あって公益社団法人 北海道栽培漁業振興公社に転職し、現在は魚介類に関わる調査ばかりを行っています。また、SWSP(札幌ワイルドサーモンプロジェクト)やザリガニ研究会、応用生態工学会などの活動に参画し、気の合う仲間達と楽しく、研鑽(と飲み会…)を積んでいます。

技術士は、2007年(平成19年)に建設部門(建設環境)、2008年(平成20年)に水産部門(水産水域環境)、2016年(平成28年)に総合技術監理部門(建設-建設環境)、2020年(令和2年)に建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)、2024年(令和6年)に環境部門(自然環境保全)を取得しました。自分の技術士受験はこれで終わり、今後は後進の指導に当たりたいと思います。

「魚」中心で人生を決めてきたような私の今後の目標は、メーターオーバーのイトウト、30kgオーバーのクロマグロを釣ることです。

折戸 聖(おりと きよし)

●建設部門、水産部門、
環境部門、総合技術監理部門

勤務先

公益社団法人
北海道栽培漁業振興公社



→次号は、藤井 真さん(建設、水産部門)